

5 付表（園芸作物品目別概況）

【本所】

品目	収量・品質の状況	特に高温によると思われる影響	今後の対策
さやえんどう	R5 実績は前年より収量品質とも低下した（R4 対比で収量 90.8%、秀品率 94.2%）。特に 7 月下旬～10 月上旬は高温の影響による減収、品質低下が顕著に見られた。	7 月下旬～8 月下旬の高温（最高気温平均 R5：29.7℃、平年値 25.7℃）に加え少雨で推移したことから、生育が前進し収穫期間も短くなったことが、減収と品質低下に大きく影響したと推察する。病害虫は、特に 8 月に萎ちょう病による茎葉の枯凋、アザミウマ類の発生被害が目立った。9 月に一部ほ場で鱗翅目害虫の発生被害があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・輪作 ・少雨によりほ場が過乾燥の場合は、気温の低い時間帯にかん水する。 ・根域を広げ根量を増やすための高畝栽培

【支所】

品目	収量・品質の状況	特に高温によると思われる影響	今後の対策
ミニトマト	定植後の生育は概ね順調に進み、ほぼ平年並みの収穫期間であった。 高温の影響で収量は 9 月に少なかったが、全体では前年並の出荷量を維持した。	7 月下旬以降は高温により果実の成熟が早まった。 8 月以降は、高温により上段果房の着果不良や落花、グリーンバック果や過熟果などの障害果が目立った。8 月の高温により草勢も低下し、9 月以降の収量は平年より少なかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・遮光資材の利用 ・土壌診断結果に基づく施肥 ・草勢に応じた追肥の実施 ・適切な水管理
高糖度トマト	8 月以降は高温による減収や品質低下が見られた。 着果不良や裂果の発生が影響し、収穫は平年より早く終了した。	8 月以降、高温により着果不良や落花、草勢低下が見られ、果実は小玉傾向となった。また、9 月中旬頃まで軟果玉が多発し、9 月下旬以降は果実肥大途中の高温・多照により裂果の発生が目立った。	<ul style="list-style-type: none"> ・遮光資材の利用 ・天候や気温に応じた給液管理
ほうれんそう	特に 7 月下旬～8 月下旬にかけて、高温の影響で生育停滞や枯死、病害の発生による大幅な減収が見られた。	7 月下旬～8 月下旬は種の作型で、高温により生育が緩慢となったほか、立枯病と萎凋病が多発し、50～60%の株が枯死するほ場が散見された。 9 月以降のは種作型では、生育は回復傾向となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・品種の検討 ・土壌消毒実施 ・適切な水管理

品目	収量・品質の状況	特に高温によると思われる影響	今後の対策
ブロッコリー	8月以降は高温による減収や品質低下が見られた。黒すす病の花蕾への発生も減収要因となった。	8～9月どり作型は、高温により生育期間が5～10日程度早まった。また、不整形花蕾、花蕾の粒揃いの不良、ブラウンビーズなどが目立った。また、7～8月を中心に花蕾腐敗病、軟腐病の発生が見られた。このほか、8月20日頃より黒すす病の発生が下葉に確認され、9月中～下旬には複数のほ場で花蕾に被害が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・多肥を避ける ・適期防除の実施 ・Ca資材の葉面散布
だいこん	8～9月どりでは、高温による病害および生理障害の発生により、減収や品質低下が見られた。	7月下旬から8月下旬の高温により、8月どりを中心に軟腐病および赤しん症の発生が散見された。また、8月上旬から9月中旬頃にかけて、複数のほ場で黒しみ症の発生が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・品種の検討 ・適期防除の実施 ・土壌診断結果に基づく施肥
にんじん	8月下旬から10月上旬頃にかけて、高温・干ばつによる生育停滞や病害が発生し、製品歩留まりの低下や小根傾向となり減収が見られた。	7月中旬から8月上旬の高温・干ばつによる生育停滞および9月の降雨が影響し、8月下旬から10月上旬頃にかけて複数のほ場で黒葉枯病の発生があった。生育中期から後期にかけて発病が多く、一部であるが、激発ほ場では大幅な減収となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・病害のローテーション防除の実施 ・適切な施肥管理